



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「日本伝道旅行」⑧

僕が津軽に帰るといふことを知った友人が同級生たちに声を掛け、月曜日のランチの時間に六人が集まってくれた。二年ほど前にも一度クラス会をもっていたので、その中の幾人かは見知っていたが、今回集まった中には四十七年振りに会う友もいる。僕はそれらの友の顔を一人たりとも覚えてはいない。それぞれ名前を確認しないと全く分からない。懐かしさに、身辺の話に花が咲いた。そこで知らされた。クラスの中で四人がすでに鬼籍に入っていたことを。

二十七日は羽田からの深夜便で帰る日だ。その日の午後、家族みんなで手を取り合って一緒に祈った。「イスラエルで洗礼を受けた姉を、数年前に新川誠先生のメッセージで信じた上の姉を、何度も主イエスを信じると言ってくれた母を、そして兄の心を守って下さい」と祈り始めると、母は涙を流し始めた。それ拭くために子供たちと結んでいた手を上げようとする。その母の涙声は僕の心を刺す。そして玄関先まで出て見送る母は、今度は声を立てて泣き始めた。足元の覚束ない母は、兄に支えられて嗚咽している。僕は老いて背が曲がり、小さくなった九十四歳の母を包み込むようにして抱いた。そして愛おしさのあまり、僕も声を上げて泣いた。車で見送る姉たちも泣いた。今度、僕が来る時、母の体調やメモリーが果たしてどうなっているだろうか、このような涙の別れも、本当に最後になってしまうのではないかと思うと、いたたまれないような辛さであった。だが、僕はその母の涙に心から慰められた。三年半前に家内が死んだ時も、母は僕に縋って声を上げて泣いてくれた。今回の母の涙も、その時と同様、わが子を慕う思いがほとばしり出るかのような愛に満ちていた。

今回の旅のもう一つの目的は、節子のいない独り身の自分の将来をどのように見据えたら良いかであった。それだけに、別れの時の母の涙に励まされて生きてゆけると思った。母の愛に支えられて生きてゆけると思ったのだ。そして何よりも僕を待っている子どもたちがいる。愛する信仰の友がいる。そして全存在を賭して僕を慕ってくれる主イエス様が共にいて下さる。その主により縋って生きてゆける。「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」(ヘブル一三・五)という主のお言葉がそれを約束している。しかも、この地上の生涯を終えても、その約束は変らない。永遠に変らない。その主イエスの約束を再確認することが、今回の旅の収穫であり、目的であったのかも知れない。その夜、僕は機上の人となった。一ヶ月に及ぶ伝道の旅が終わった(完)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

